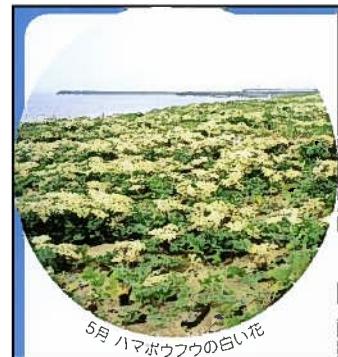
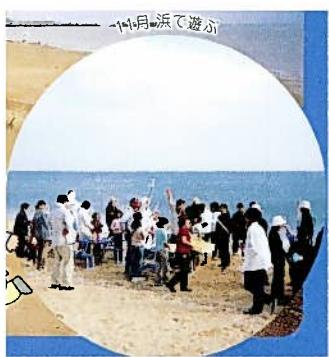


調査団体名	白塚の浜を愛する会	団体代表者名	西口恵子
活動地域	津市白塚町	団体URL	なし
<活動内容>			
■設立のきっかけ 流域下水道・志登川浄化センターの建設で、白塚の浜が壊されることを知り、浜を残したいと1995年に活動開始。 ■活動経過 下水道建設反対を前面に押し出すのではなく、「白塚海岸を未来の人たちに受け継がせたい」と浜の素晴らしさを発見し、伝えることをやってきた。具体的には、1)白塚海岸の自然環境を知ることから始め、ウミガメが産卵に来ていることや貴重な海岸植物が生息していることが分かる。2)伊勢湾の沿岸域の状況を調査し、140mという奥行きのある砂浜は近隣では他にないことが分かる。3)白塚海岸の植物群落調査を日本自然保護協会の協力も得て行う。1)~3)の成果を活かし、4)「白塚の浜は空き地じゃない——主婦の目でみた環境アセス」や、5)白塚海岸の魅力を伝えるパンフ「未来へつなげよう白塚の浜」などを作成した。 ■現在の取り組み 1)海岸清掃・草刈り(帰化植物の除草も含む) 2)浜のPR活動(幼稚園や小学校に力を入れる) 3)自然観察会 4)浜辺の自然と親しむ集い 5)ウミガメの保護活動 6)初日の出ウォッチング(隠れた初日の出スポット)など ■会員数 約10人			
<連携している団体・専門家・自治体など>			
みえのうみ(三重県農水商工部水産室)とミクロ・コスマス みえのうみが現在中心。 「自然観察指導員になりネットワークを広げた」。「素人だったので、どこやここやで聞いて、いろいろな専門の人に教えてもらった」。近隣では、阿漕浦友の会の久米宏毅さんや、町屋100人衆。			
<今まで行った調査・研究>			
○「白塚の浜は空き地じゃない——主婦の目でみた環境アセス」(1999年) ○「主婦の目で見た 伊勢湾岸調査(木曾岬～神前岬)——環境に配慮した護岸工事のあり方を考えてみませんか」(2001年) ○「主婦の目で作った 伊勢湾の海岸指標——伊勢湾の海岸線は自然豊かなのか?」(2002年) ○「伊勢湾 海岸植物群落調査報告書」(2005年)			
<現在直面している課題>			
○流域下水道計画は現存している。計画は改められ、白塚の浜の消失面積は減り、現在、工事は止まっているが、いつ壊されてもおかしくない状況。 ○松をせっせと植える人がいる。浜全体に松を植えないで砂浜として残してほしいが「いいことをしている」とその人は思っているし、地域の人もそう思っている。 ○ゴミを拾う活動は増えたが、それだけではなく、外来種の駆除をやったほうがいい。 ○グラウンドの土を入れてしまっている部分があるので、それを元に戻したい。 ○浜までどうやって来てもらうのか? 特に若い人に。食べもの付きでしているが、昔ながらの自然観察会ではなかなか来ない。何もないのがいい。だが、目に見える形で白塚の浜の魅力をどう伝えるのか。			
<今後どんな情報が必要か>			
○砂浜を残した成功事例が欲しい ○全国的な砂浜がどのような状況にあるのか ○手軽な助成金(20万円くらい)の情報 ○浜に来てもらう新しい方法 ○人に伝わる話し方(学校に話しに行くが、話し方は教えてもらったことはない) ○自然の価値をどう伝えるのか			



以上3点の写真は、会が作成したパンフ「未来へつなげよう白塚の浜」からスキャンしたもの



浜の入口。中央は会の代表・西口さん  
(09年3月18日竹峰撮影)  
看板は、奥は会が作成、手前は地元中学校の美術部作成



白塚の浜(09年3月18日竹峰撮影)



下水道処理場(09年3月18日竹峰撮影)